

# 歴史とまちづくり活動の経緯

## 1. 東川町らしいまちづくり

東川町らしい住環境のモデルを創出するため、2006 年から「グリーンヴィレッジ」という宅地分譲地が造成された。設計は、民間企業の専門家と建築家に来町頂き、モデルを創出している。

## 2. 東川風住宅設計指針

グリーンヴィレッジの入居希望者には、「東川風住宅設計指針」を配布する。「東川風住宅設計指針」とは、先人が残してくれた山や川、植物などの優れた自然景観と生活から生まれた田畑や住宅などの美しい文化景観を次世代へ継承していくための住宅の建築や改築、そして庭造りに関する方法が示されたものである。入居者はこの指針に基づき、庭の植栽方法や木材の利用、屋根の形・色、外壁の色といった外観について守られるよう注意する。さらには、塀や囲いの制限、オイルタンクの隠し方などにも美しい景観を守るための方法を検討し実践している。

## 3. 樹木の管理

グリーンヴィレッジ内には緑道が完備され、1 期～3 期の宅地造成がなされ順次班ができ、春から秋にかけて、木の下枝刈り、草刈り、草集めを年 5 回程度実施し、また、慰労会（交流会）を実施し、地域の親睦を深めている。

これからは、グリーンヴィレッジの造成から 10 年以上が経過し、樹木が大きく成長してきていることもあり、間引き（間伐）作業が必要となってくる。地域の人たちが話し合い、間伐された樹木や枝払いされた小枝の処理が必要になってくるが、近年、エコへの環境意識が高くなっていることもあり、グリーンヴィレッジには薪ストーブを設置されている住宅が数多く存在していることから、更にこれらの不要となる樹木を再利用できるように、地域の希望者に配布し、薪の地産地消を目指す。道具用物置の製作、落葉ボックスの製作による落葉堆積、腐葉土の活用、講師によるガーデニング講習会も開催、先進地の視察など検討する。